おわりに・謝辞

本研究報告は、「はしがき」にあるように、著者が所属する国立研究開発法人建築研究所において担当した、指定課題「水害リスクを踏まえた建築・土地利用とその誘導のあり方に関する研究（研究期間：令和元年度～３年度）」の研究成果の内の、建築物の浸水対策に関する成果等をまとめたものである。また、研究の実施に際して独立行政法人日本学術振興会より、科学研究費助成事業の基盤研究（Ｂ）「建築・敷地レベルでの都市の水害リスク軽減手法とその評価及び誘導策に関する研究（令和２年度～４年度）」（JSPS 科研費 JP20H02336）により、助成を受けた。まずは、建築物の水災害対策に関する各方面での取り組みが正に始まったこの時期に、上記の研究に取り組む機会を与えていただいた関係者に感謝申し上げたい。

これらの研究の着手に至った契機としては、主著者が国土交通省国土技術政策総合研究所に在籍した際に、気候変動研究本部において取り組んだ事項立て課題「気候変動下の都市における戦略的災害リスクの軽減手法の開発」（平成 27 年度～29 年度）への参画がある。その実施過程における議論や成果から、本研究を進める上での多くの知識・知見・示唆を得ている。現在のように、「水災害の頻発化・激甚化」が社会問題としてメディア等にとりあげられる以前に、まちづくりにおける水災害対策への取り組みの重要性に気づかせていただいた方々に感謝申し上げる。

また、研究を進める過程において多くの方々のお世話になった。記してお礼申し上げる。

水害による被災者や被災マンション管理組合をはじめとして、復旧ボランティア、建築士、マンション管理会社等の方々に、ヒアリングや資料提供等で多くの協力を得た。

千葉工業大学元教授の田村和夫先生には、検討の初期から色々と情報交換や相談にのっていただくなどした。滋賀県立大学准教授の瀧健太郎先生には、浸水リスク情報に関するデータ提供などに関して、ご協力をいただいた。明海大学准教授の藤木亮介先生には、既存分譲マンションの浸水対策改修にかかわる検討部分にご参画いただき、ご助力いただいた。

業務としてではあるが、（株）現代計画研究所、（株）翔設計の担当者には、筆者らには担う事のできなかった試設計において多くの作業と知見の提供をいただいた。

仕事の上でやりとりをした、国土技術政策総合研究所及び、建築研究所の同僚、国土交通省本省（住宅局、都市局、水管理・国土保全局）、著者が参加する日本建築学会や日本都市計画学会、日本学術会議の委員会・部会等の委員からは、関連するさまざまな情報やご示唆をいただいた。

本研究報告の審査をご担当いただいた匿名の査読者２名からは、大所高所から誤字・脱字に至るまで、重要な点についてご指導とご助言をいただいた。なお残る改善を要する点は多々あると思われるが、その責はひとえに著者らに帰すべきものとして、ご容赦いただきたい。

水害に対してレジリエントな社会の構築に向けて、今後、取り組むべき課題は多い。本研究報告が関心を有する多くの方々に参照され、建築物等における対策に役立てられることを祈念する。

令和５年１月

木内　望　国立研究開発法人 建築研究所　研究専門役
中野　卓　国立研究開発法人 建築研究所　住宅・都市研究グループ　研究員